

告げることから

ねらい ▶▶

- 人をありのままに認めることの大切さに気づき、それが普遍的な人権概念の尊厳であることを考える。(人権の普遍性)
- 同和地区出身であることを告げること(カミングアウト)の意味を考えるとともに、同和地区出身であることで正当に認められないことが差別であることを考える。(人権問題の独自性)
- 同和地区出身であることを告げる必要はないが、ときとして告げざるをえなくなる社会的背景に部落差別の現実があることに気づく。
- 人を尊重するという個人の尊厳が大切にされた社会を作るためになにが大切かを考える。

キーワード 尊重、尊厳、カミングアウト、同和問題、結婚、葛藤

準備物

- ワークシート①～⑥ 1人1枚
- クリップボード 1人1枚
- ホワイトボードと専用マーカー(黒板も可)

プログラムの流れ

- 5分** 1. 趣旨とルールの説明 • 学習の目標や進め方などの共通認識を作る。
- 15分** 2. 同じところでビンゴ • 同じところがあることと違いがあることでどう感じるかを体験する。
- 25分** 3. 私を紹介 • 自己紹介を通じて、人を尊重することが個人の尊厳という人権につながることを、尊重しないことが差別につながることを考える。
- 25分** 4. クイズ 同和問題は今 • 人を認めないことの1つに同和問題があること、部落差別の現実を学ぶことで、同和地区出身を伝えるということの意味を考える。
- 20分** 5. だれもが尊重される社会のために • 同和問題の解決から、人が尊重されるための社会づくりの方向を考え、学んだことをふりかえる。

時間	詳細な手順	ポイント
スタート	<h2>1 趣旨とルールの説明</h2> <p>5分</p>  <p>今日は、同和問題を題材にしながら、人を大切にすることの意味を考えてみます。</p> <p>学習の流れは、①同じところでビンゴ、②私を紹介、③同和問題は今、④誰もが尊重される社会のためにランキング、です。</p> <p>進め方は、参加体験型学習で進めていきます。参加者が主体となって話をしながら、お互いの学びあいの中で学習を進めるものです。できる範囲でけっこうですので、</p>	<p>※会場設営については、イスのみで半円型にするとうい。P6を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習のテーマを明確にする。 • 参加体験型学習の説明と、参加体験型学習が初めての参加者の不安が少なくなるようにする。

参加をしてください。

そのために、3つ、お願いがあります。この場では、「協力・尊重・守秘」をルール(約束)としたいのです。

●「協力・尊重・守秘」と板書する。



「協力」とは、おたがいに学ぶために協力しあいましょう、ということ。「尊重」とは、それぞれのあり方や意見・思いを尊重しましょう、ということ。「守秘」とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる(外に持ち出さない)、ということです。

5分
経過

2 同じところでビンゴ

15分

説明と個人記入5分、ビンゴゲーム5分、感想の共有5分



はじめに、自分と同じところ探しをします。他の人と同じところがあるかどうかを、「同じところでビンゴ」をやりながら考えてみたいと思います。

シート1を個人記入する

●シート①を、1人1枚配付する。



まず、シート①の1から9までの質問に答えてください。時間は2分です。

ビンゴゲームをする



では、書き込んだシート①を持って、会場内を歩き回り、出会った人に、自分の名前を言ってから1問だけ質問します。相手の答えが自分と同じならばそのマスに○をつけてください。終われば、次の相手を探して移動してください。

書いた○が縦、横、斜めに1列に並んだらビンゴと言って、早い人から席に座ってください。座る席は、前の端から後ろに順番に座ってください。

やり方で質問はありませんでしょうか。

では、はじめてください。ゲームの時間は5分です。

●ビンゴゲームをやらせよう。



では、終了です。

感想を共有する



いかがだったでしょうか。感想を紹介していただけますでしょうか。

早くに座られた方、いかがでしたでしょうか。

●1、2人に感想を聞く。

- 同じことで安心があったり、違うことで不安があったりということを考える。

- 書けたかどうか、参加者の様子を見る。

- やり方についての質問があれば説明するなど、やることがうまく伝わったかどうか注意する。

- 動き回ることが不自由な参加者には、座ったままで紹介をせよ。

- 参加者の半数くらいが座ったり、時間になったらしたら、終了する。

- どのような状況があってビンゴになったかを共有するため、早く座った人から聞いてみる。

15分
経過



なかなか座れなかった方はどうでしたか。

- 1、2人に感想を聞く。



同じであることでうれしかったり、安心したり、逆に同じでないことに不安を覚えたり、寂しくなったりといったことがあるかもしれません。

このゲームでは、同じ人が多くいると有利になり、少なければ不利になるということがありました。このようなことは、日常生活の中でもあると思います。

- つぎに、なかなか座れなかった人から意見を聞き、早く座れた人との状況を対比させてみる。

20分
経過

3 私を紹介

25分

グループ作りと説明3分、個人記入3分、グループで自己紹介5分、共有4分、
「認められない」事例紹介5分、グループでAさんの不安の背景を考える5分

グループを作り、説明とシートへ個人記入をする



では、4、5人のグループになって、机を囲んで座ってください。グループは、前のビンゴで早く座った人と、なかなか座れなかった人とがまざるグループになってください。

- 机を囲んで4、5人で座ってもらう。



これから4つの項目で自己紹介をしながら、違うところがある人と人との関係を考えます。

- シート②を1人1枚配付する。

シート②の4つの項目で自己紹介します。まず個人でキーワードだけを記入してください。時間は3分です。

グループで自己紹介をする



では、グループで自己紹介を始めます。自己紹介する人は、簡潔に紹介をしてください。

聴いている側の方は、自己紹介をじっくり聴いてください。そして、自己紹介が終わったら、紹介の順番の次の人が、その紹介の内容について1つを誉めてください。誉めの言葉が終わったら、次の人が自己紹介を始めてください。

やり方で質問はありませんか。

- 質問があれば答える。



では、始めてください。

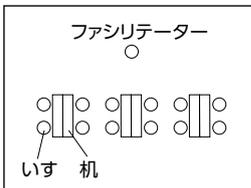
- 自己紹介をしてもらう。

全体で共有する

- 先のビンゴゲームで先に座れた人と、なかなか座れなかった人とが同じグループになるように考えると、グループの雰囲気にも幅ができる。

- 机は、2台をくっつけてもよい。

会場設営



- 自己紹介が、自分の大切な要素を考えることになり、「自分」を大切にすることにも関わることを考える。

- 相手を尊重した聴き方である「傾聴」を体験する。
- 自己紹介で出された自分の大切な要素を認める、認められるという体験をする。
- ファシリテーターが自分の自己紹介をしてみせてもよい。

 自己紹介は終わりましたでしょうか。自分のことを紹介して誉められたときはいかがだったでしょうか。

●数人に感想を聞いてみる。

 誉めることは、相手を受け止め、それを認めること、尊重することにつながると思います。これは、相手を個人の人間として大切にすること、個人の尊厳という人権の考え方につながるのではないのでしょうか。

35分
経過

「認められない」事例を知り、不安の背景を考える

 しかし、認められないときもあります。1つの事例を紹介します。

●シート③を配付して、読み上げる。

 このAさんは認められ尊重されているのでしょうか。どこに住んでいるかを聞かれるために、同和地区出身ということを言おうか言うまいかと悩んでいます。

このように、生まれや住んでいるところが同和地区だからということでその人を否定して尊重しないのが部落差別の1つといえるのではないのでしょうか。

では、なぜこのAさんは不安なのでしょう。その理由について、グループで話し合ってください。時間は5分です。

ありがとうございました。

- 不当な理由でその人を認めないことが差別になることを考える。
- 同和地区出身を言うことへの不安がどこからくるのかを、次の「同和問題は今」で考えるため、不安の背景にあるものに注目する。

45分
経過

4 クイズ 同和問題は今

25分

説明とシート④の個人記入5分、グループでの共有5分、解答の紹介5分、シート③同和地区出身であることを告げることを悩む背景を考える5分、全体共有5分

クイズの説明とシートへ個人記入をする

 では、なぜ「どこに住んでいるか」が気になり、同和地区出身者が出身であることを言おうか言うまいか悩まなければならないのでしょうか。その社会的な背景を、三択のクイズをしながら考えたいと思います。

●シート④を1人1枚配付する。

 では、読み上げますので、答えと思われるところに○をつけてください。

●シート④の問題を順番に読み上げる。

グループでの共有と解答を紹介する

 では、書いた答えをグループで紹介してください。また、それを選んだ理由も紹介してください。時間は5分です。

では、現実はどうなのか。

- 個人的な悩みではなく、社会の差別が背景にあることを考える。

- 解答を紹介して順番に読み上げる。
- シート⑤を配付する。

カミングアウトを悩むAさんの背景を考える

 クイズでみてきたように、同和地区出身だからその人を認めないという部落差別は存在しています。しかし、差別をなくそうとする取り組みも進められてきていて、改善されてきている面もあります。今は、部落差別をなくし、同和問題を解決する取り組みの途上であるといえます。

では、シート③の事例に戻ります。

クイズで見たような現実があるという背景を考えると、Aさんが同和地区出身を言おうか言うまいかを悩まなければならないのは、どうしてでしょうか。感じたこと、考えたことを話しあってください。5分くらい時間をとります。

その後、いくつかのグループから、出たことを紹介していただきます。

全体で共有する

 では、グループでどのような話が出たかを紹介してください。

- 数グループから、話し合いの中での感想や意見を紹介してもらおう。

 必ずしも同和地区出身であることを言わなければならないということではありません。しかし、それを言おうか言うまいか悩まなければならない背景として、社会に差別の現実があるということだと思えます。

- 部落差別が存在していることを考えてもらうとともに、差別をなくすための取り組みにより、改善されてきているところもあることを伝える。これによって、次の活動のAさんが同和地区出身を告げることで悩まなければならない背景とつなげる。

- 同和地区出身を告げざるを得ない背景には、本人の強さの問題ではなく、社会に部落差別の現実があることを考える。

5 だれもが尊重される社会のために ランキング

20分

ランキングの説明とシートの個人記入5分、グループでの話し合い10分、まとめ5分

ランキングの説明と個人記入をする

- シート⑥を1人1枚配付する。

 では、誰もが自分を認められる社会にするために、どのようなことが必要でしょうか。

同和地区出身者や同和地区を避けることなく、同和地区出身者がその出身をためらわずに言えるような、だれもが自分を認められる社会にするため、次のような取り組みがあります。

あなたは、どの取り組みを大切だと思いますか。まず個人で作業をしてもらいます。大切だと思うことから、「学習」「啓発」といったキーワードを、□に上から順に入れてランキングを作ってください。時間は3分です。

- 差別をなくすための行動につなげることを考える。

- 取り組みは、社会に求めることと、自分ができることとの両方を考える。

- 問題解決のための取り組みは、いくつもあるということに気づく。
- それぞれの取り組みを合わせていくことを学習する。

グループでの話し合い



次に、あなたが考えたランキングとその理由について、グループで紹介してください。

そして、グループで出されたランキングについて、感じたことや考えたことを話し合ってください。

10分ほど時間を取ります。

85分
経過

まとめ



差別をなくして誰もが尊重される社会づくりには、さまざまな取り組みがあります。その取り組みは、社会で取り組むことであったり、自分が取り組むことであったりします。

自分が大切だと思うところから、取り組んでいただきたいと思います。

今日は、同和問題を取り上げて、同和地区出身であることを表明することの不安や悩みから、相手を尊重することが尊厳につながり、尊重せずに否定することが差別につながることを考えてきました。

差別することなく相手を尊重すること、そのような社会を作っていくこと、そしてそのための私たちの行動を大切にしたいと思います。